

旧小学校を拠点とした子どもの居場所づくり & 地域の活性化

田舎ランド^{しぎうち}鳴内 (那須塩原市：鳴内・湯宮地区)

スタッフ構成

- 所長……………1名(教育課長が兼務)
- 社会教育指導員……………1名(週4日、1日6時間勤務)
- 事務補助員(臨時)……………1名(週4日、1日6時間勤務)
- 管理員(臨時)……………1名(週4日、1日6時間勤務)

主な活動

田舎ランド鳴内及び近隣の野外フィールドを、子どもの居場所づくりやボランティア活動の場、生涯学習の場として活用し、交流を通して「地域活性化」を図るための事業を展開している。

- (1) 毎週土曜日・日曜日及び休日
 - ・子どもから大人まで楽しめる体験教室等(酪農、炭焼き、木工工作、陶芸、パン・うどん・炭酸饅頭・ピザづくり、みずみず体験、天体観察など)を開催している。
- (2) 平日
 - ・保育園や小学校の体験活動、地域の団体や学童保育の場所として提供している。
- (3) 夏休み等
 - ・子ども会育成会、青年団体、ボランティア活動の活動場所として提供している。
- (4) その他
 - ・地域団体との共催事業、収穫祭や遊びの日などのイベントを開催している。

立ち上げの経緯

- 平成14年3月 児童数減少に伴い、鳴内小学校閉校
- 平成14年4月 高林小学校と統合(高林小学校校舎建築のため、旧鳴内小学校を仮校舎として使用)
- 平成16年 生涯学習施設として一部改修
- 平成17年4月 「田舎ランド鳴内」としてオープン

継続・充実のためのポイント

継続のコツ その1は…?

【運営方針】

- ①自然環境を生かす
- ②地域と交流ができる様々な主催事業の展開
- ③子どもから高齢者まで幅広い年齢層の利用

継続のコツその2は…?

【運営組織】

- 〈田舎ランド鳴内管理運営協力委員〉
- 構成メンバー
地元行政長官、関係団体代表(レクリエーション協会、家庭教育オピニオンリーダー、地元産直会)、ボランティア、地元代表など13名
 - 運営会議
田舎ランド鳴内管理運営協力委員と事務局で構成し実施

充実のポイントは…?

- ①体験教室の参加者の声を分析し、メニューの充実を図る。
- ②地域活性化につながるイベント等を開催する。
- ③多種多様なPRを展開し、たくさんの人に利用してもらう。
- ④利用者から常に新しい活用方法を聞き取り、その実現に向け努力する。

予算は…?

田舎ランド鳴内の事業費と国の地域子ども教室の予算で運営している。

活動例

『農』体験

- ・ねらい 野菜作りや牛の世話、乳搾りなどを通し、収穫の喜びを体験させる。
- ・場所 田舎ランド鳴内脇の休耕地および地元酪農家宅など。
- ・内容 農園教室（講師：地元農家の方）
季節に合わせた種まきや植え付け、収穫を体験。ジャガイモ、サツマイモ、白菜、大根の植え付け。
酪農体験教室（講師：地元酪農家の方）
牛の世話や乳搾りを体験。



さつまいも掘り



牛の乳搾り



みずみず体験

『自然』体験

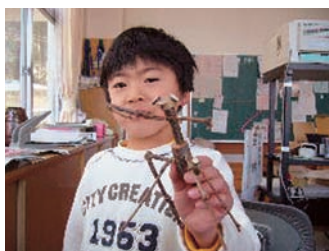
- ・ねらい 自然の中で遊べなくなっている子どもたちに、沢遊びや山遊びを体験させる。
- ・場所 田舎ランド鳴内近くの沢と鳴内山
- ・内容 みずみず体験教室（講師：社会教育指導員、地元ボランティア）
沢でマスカミをした後、串に刺して炭焼きまでを体験。
山がっこう探検隊（講師：地元ボランティア）
植物観察や昆虫観察、キノコ取り、ネイチャーゲーム、隠れ家作りなどの遊びを通して、山の歩き方やルールを教える。



山がっこう探検隊（隠れ家作り）

『創』体験

- ・ねらい 楽しいものづくりをしながら、工具の正しい使い方や完成した時の喜びを体験させる。
- ・場所 田舎ランド鳴内
- ・内容 木工工作教室
（講師：社会教育指導員ほか）
自然の材料を使って自由に昆虫やリースづくり



昆虫



ペンたて

大人と子どものすがた

スタッフは…？

- 「地域の活性化のきざしを感じるなあ！」
- 「子どもたちの笑顔を見ていると、元気が出てくるなあ。」

子どもたちは…？

- 「学校では味わうことができない遊びや体験ができてうれしい！」
- 「やさしく教えてくれるから、また遊びに来たいなあ！」

地域の大人たちは…？

- 「他の地域から多くの人たちが来るようになり、にぎやかになってきた！」

自治公民館と地区公民館の連携で子どもをはぐくむ

西那須野地域子ども教室（那須塩原市：西那須野公民館）

スタッフ構成

やんちゃくらぶボランティア 33名

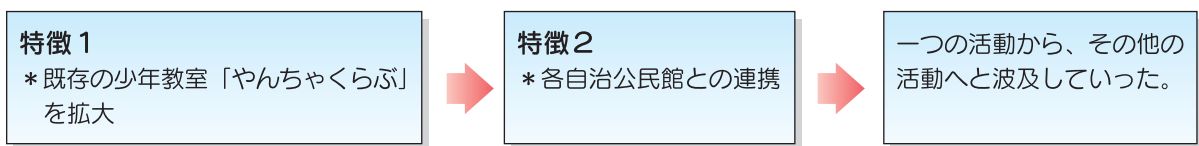
- 内訳 公民館利用団体から ……………23名
- 中央地区コミュニティから …………… 1名
- ボランティアグループ「ひだまりの会」から …… 4名
- やんちゃくらぶの保護者から …………… 5名

主な活動

- (1) 子どもの居場所づくり
 - * 下校時、主に水曜日にボランティア4～5名が、小学校に子どもたちを迎えに行き、公民館で宿題を見てあげたり、ボランティア手作りのおやつを食べさせたり、昔遊びやおもちゃ作りなどをして、6時に保護者が迎えに来るまで見守っている。
- (2) その他の活動
 - * 主に土曜日に、農園作りやクリスマス会、正月遊び等を行っている。また、各自治公民館（4カ所）で開催している少年教室も、月に1度程度開催している。

立ち上げの経緯

従来からあった少年教室の「やんちゃくらぶ」を拡大し、ボランティア養成講座から誕生した「ひだまりの会」のメンバーを中心に、中央地区コミュニティの構成自治区の活動とも連携しながら、子どもの居場所づくりに着手した。



継続・充実のためのポイント

継続のコツは…？	課題の克服は…？	予算は…？
<p>【その一】 中心となる人が、リーダーシップを発揮している。</p> <p>【その二】 ボランティア各人の個性を理解し、それを生かしまとめていくこと。</p>	<p>【現在は】 公民館職員とコーディネーターに頼りきっている。</p> <p>【将来は】 ボランティアの中から、リーダーが出現し、機能すること。</p>	<p>活動する経費は 公民館の事業費 と 国の地域子ども教室の予算 で運営している。</p>

活動例

『親子でキャンプ』



親子のふれあいを目的に実施したキャンプなので、親子の絆が深まりました。



新しい公民館の多目的広場で実施できたので、カレーライスを作ったり、キャンプファイアをしたり、肝試しなどもやることができました。

『紙芝居会』



保護者で経験のある方をお願いをして開催しました。とても、楽しかったですヨ!!



僕は、公民館へ行って、紙芝居を見るのが大好き！次もよろしくね!!



大人と子どものすがた

ボランティアは…？

高齢者の方が多いので、

「時々子どもたちのワンパクぶりに手を焼くこともありますが、全体的には子どもたちとのふれあいを通じて、元気をもらい若々しくなっているような気がします。」

子どもたちは…？

「1年生より2年生3年生になっていくに従って、成長の跡が見受けられます。特に、やんちゃでどうしようもなかった男の子に、顕著に現れているようです。」

保護者は…？

「ボランティアの方の活動する姿を見て、お手伝いしようという気運が高まってきたようです。」

若鮎クラブが中心となって、地域ぐるみで子どもをはぐくむ

那須烏山市若鮎クラブ（那須烏山市）

スタッフ構成

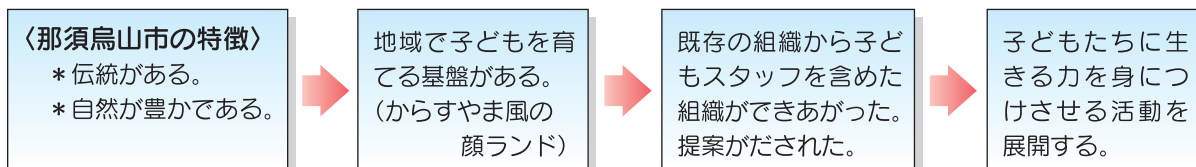
大人スタッフ 10名、子どもスタッフ（32名）
〔中学生 9名・高校生 20名・大学生 3名〕

主な活動

- (1) 地域の自然を知ろう
 - * 川をフィールドにした自然体験活動を通して、子どもたちに何事にも主体的に取り組む姿勢を育てる。
- (2) 地域の歴史を知ろう
 - ①山あげ祭に参加しよう
 - * 山あげ祭の歴史を理解するとともに、実際に祭りに参加し、郷土理解を図る。
 - ②烏山いろはかるた巡り（かるたとり大会）
 - * 烏山いろはかるたの史跡等へ訪れ、その由縁や当時のことを学び、かるたマップづくりやかるたとり大会を実施する。

立ち上げの経緯

地域子ども教室推進事業を実施するにあたり、地域で子どもを育てる既存の組織（からすやま風の顔ランド）を中心に、子どもスタッフと大人スタッフにより事業内容の検討や実際の活動を行っている。



継続・充実のためのポイント

継続のコツは…？

- 【その一】大人スタッフと子どもスタッフが、計画から実践まで一緒に行く。
- 【その二】活動ごとに、子どもスタッフのリーダーを代える。
- 【その三】何でも話し合える雰囲気をつくる。

課題の克服は…？

- 【その一】大人スタッフと子どもスタッフが、常に情報を共有し共通理解を図るようにしている。
- 【その二】課題が生じた場合は、常に原点（何のための事業なのか）に戻って考える。



予算は…？

活動する経費は、参加費と国の地域子ども教室の予算で運営している。

活動例

地域の自然を知ろう

地域の自然を生かした多種多様な活動を行うことにより、子どもたちに仲間を大切にすることや何事にも積極的に取り組む姿勢を育てる。



みんなでさつまいもの苗植えをして、大変だったけど、とても楽しかったよ。さつまいもができるまで面倒をみるんだ。



毎日見ている那珂川で、こんな楽しい活動ができると思わなかったよ。でも、河原にはゴミがたくさん落ちていたよ。私たちにたくさんのことを教えてくれる那珂川を大切にしないとね。

【主な活動】 【年間 35 回実施】

5/21 (日)	どろんこ体験 (田植え体験)
6/10 (土)	土に親しむ (さつまいも苗植え)
7/22 (土)	山あげ祭に参加しよう!
9/30 (土)	レクリエーション大会をしよう
11/12 (日)	収穫祭を開催しよう
11/25 (土)	世代間交流会
12/ 9 (土)	臼と杵で餅つきに挑戦
1/28 (日)	烏山いろはかるたとり大会
3/ 3 (土)	ひな祭り親子教室

地域の歴史を知ろう

山あげ祭の参加や烏山いろはかるたの活動を通して、郷土の歴史や文化を再認識をするとともに郷土を愛する心を育てる。



【山あげ祭】



【かるた巡り】



【かるたマップづくり】



【かるたとり大会】

大人と子どものすがた



子どもスタッフは…?

「子どもスタッフとして子どもたちと一緒に活動することは、自分自身の学びになるんだね!」
 「来年度は、子どもたちがさらに意欲的に学べるような企画を考えたい!」
 「小さい子の面倒を見ていると、なぜだかうれしくなるんだよね!」



大人スタッフは…?

「活動の度に、子どもスタッフの成長する姿が見えてとてもうれしいよ。」
 「参加している子どもがとても喜んでいるので、また頑張ろうという気持ちになるよ。」
 「活動プログラムを立てる上で、子どもスタッフから学ぶことが多かったよ。」

子どもたちは…?

「お兄さんやお姉さんと一緒に活動できて、とても楽しかった。僕も中学生になったら子どもスタッフとして頑張るんだ!!」
 「毎週のようにいろいろな活動ができてとても楽しいよ。友だちもたくさんできたよ。」

子ども会育成会が中心となって、地域ぐるみで子どもをはぐくむ

那珂川町小川栄町子ども会育成会（那珂川町：小川栄町）

スタッフ構成

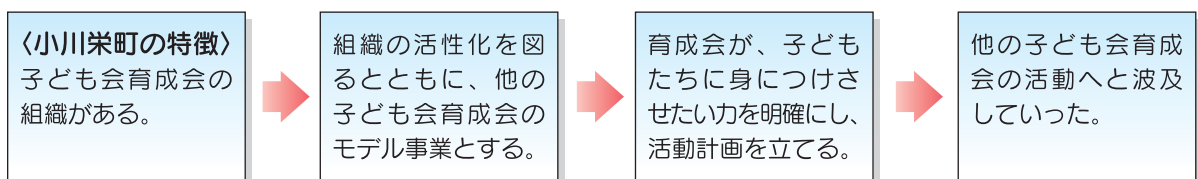
那珂川町子ども会育成会会員 89名

主な活動

- (1) 総会・役員会・定例会の開催
* 子ども会育成会総会、役員会を年数回と定例会を年4回程度行っている。
- (2) 奉仕作業（蛍の生息地の清掃等）
* 蛍のすみよい環境をつくるため、子ども会育成会がごんづがわ権津川の河川周辺のごみ拾いや草刈りを積極的に行っている。
- (3) お祭りの開催
* 子ども会育成会が中心になり、伝統の子ども御輿で町内を練り歩き、地域コミュニティの活性化を図っている。
- (4) ふれあいキャンプ
* 地元の様々なボランティアの協力により、うなぎや鮎のつかみ取り、カヌー、そば打ち、昔語り、なす風土記体験学習等多彩なイベントを実施し、多様な体験活動、異年齢集団の交流を図っている。

立ち上げの経緯

地域における人と人（子ども同士、大人同士、大人と子ども）のふれあいを求め、子ども会育成会（既存の組織）が中心となって立ち上げた。



継続・充実のためのポイント

継続のコツは…？

【その一】
既存の組織をいかに活性化するか。
(活動の原理・原則に立ち返る)

【その二】
自由に話し合える雰囲気を作ることが大切。
(指導者を固定しない)

課題の克服は…？

【その一】
指導者が随時話し合い、共通理解を図り、
様々な問題に対してみんなで解決している。

【その二】
活動を振り返るために、アンケート調査を行っている。

予算は…？

活動する経費の大部分を自治会費（区費）からまかなっている。
また、モデル子ども会として、小川青少年育成協会から支援金を受けている。

活動例

ふれあいキャンプ



そば打ちはとても大変だったけど、味は最高でした。今度は、そばの種まきから挑戦してみたいな。

那珂川を中心とした活動を行うことにより、自分たちの住んでいる地域を見直すことができました。



みんなで協力して行うお祭りはとても楽しかった。高齢者の方も喜んでくれたよ。

地域でのお祭り



奉仕作業（蛍の生息地の清掃等）



蛍はとてもきれいだね。いつまでも、蛍が住めるきれいな川にしたいね。



蛍はきれいな川にしか糖まないんだよ。川をきれいにしたら、蛍の観察ができるんだよ。蛍がたくさんいる地域にしよう。

大人と子どものすがた

スタッフは…？

「今までやっていた活動を子どもの視点に立って見直すことが大切なんだね。」

「アンケートや感想等で事業の反省を行い、子どもたちがもっと意欲的に学べるようなプログラムを考えてみたいね。」

「子どもたちのために、他の育成会のモデル的な事業となるよう頑張ったよ。」

子どもたちは…？

「いろいろな活動ができ、とても楽しかった。友だちもたくさんできたよ。」

他の育成会の方は…？

「とても参考になる活動なので、私たちの子ども会育成会でも取り入れたいと考えています。」

地域全体は…？

「毎年、子ども会育成会で行うお祭りが楽しみなんだ。子どもたちが元気だと、地域全体が明るくなるね。」

スポーツを楽しみながら、大人と子どもがふれあう

たぬまわいわいクラブ（佐野市：田沼地区）

スタッフ構成

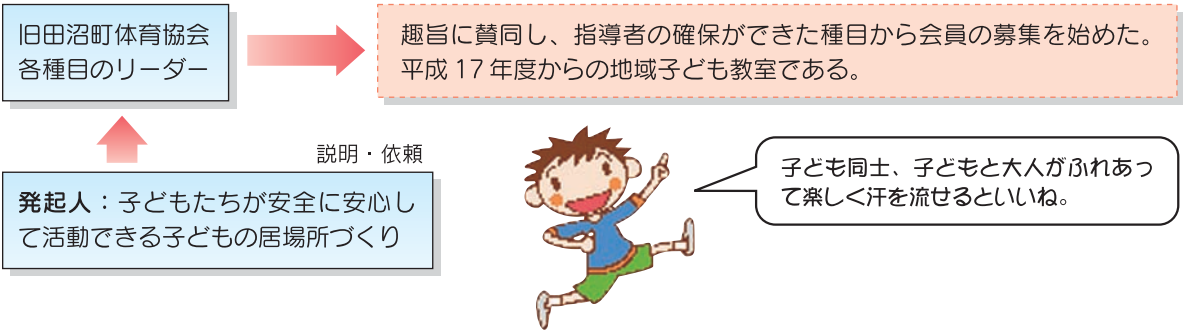
49名（運営スタッフ、各スポーツクラブ代表指導者、クラブ会員保護者）

※会員：大人60名 子ども237名 計297名（12月20日現在）

主な活動

活動種目	内容	活動日	会場
バドミントン	基礎から試合方法までを学び、ゲームでさわやかな汗を流しています	火曜日 19時～21時	アリーナたぬま
陸上競技教室	小・中学生とその保護者を対象に、走運動の基礎練習を行っています。	水曜日 18時半～20時	グリーンスポーツ
バスケットボール	小・中学生が基礎練習やゲームを通し、交流を図っています。	水曜日 17時半～19時半	アリーナたぬま
ソフトバレー&インディアカ	ソフトバレーとインディアカの基礎から試合方法までを学び、ゲームを楽しんでいます。	金曜日 19時～21時	アリーナたぬま
卓球	卓球の基礎から試合方法までを学び、ゲームを楽しんでいます。	土曜日 19時半～21時	アリーナたぬま
タグラグビー	親子で楽しみながら、心地よい汗を流しています。	土曜日 17時～19時	アリーナたぬま
バレーボール	基礎と試合方法を学び、ゲームを楽しんでいます。	土曜日 9時～12時	栃木小体育館
ヒップホップ	小学生を対象に、仲間とともにダンスを創作し、楽しく踊っています。	木曜日 17時～19時	アリーナたぬま

立ち上げの経緯



継続・充実のためのポイント

課題の克服	行政との連携	スタッフや会員の仲間づくり
<p>連絡調整会議 (2ヶ月に1回程度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種目(サークル)の活動方針を尊重しつつ、居場所づくりの趣旨を確認 情報交換や調整 指導者の確保 総合型地域スポーツクラブ「たぬまアスレチッククラブ」への移行を目指し連携 	<p>「地域子ども教室」事業として実施しているため、公的施設の減免措置が受けられる。</p> <p>新しい施設で設備も充実したアリーナたぬまを利用している。</p> <p>子どもたちも大喜び</p>	<p>親睦や交流を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> 親睦会 10月29日(日) 筑波山ハイキングでは、別の日に行っている種目の人たちと交流 スポーツ交流会 11月25日(土) アリーナたぬまに約90名参加し、ニュースポーツ体験や他の種目の活動を行う。

活動例

バドミントン

仲良しの友達や地域の知り合いの大人の人とバドミントンができて楽しい。(中学生)



わいわいに来て、同じ趣味をもつ友達ができてよかったわ。子どものこともいろいろ話せるし。(母親)



- ・上達してくれるのはうれしいし、子どもたちとずいぶん親しくなった。気軽に声をかけてくれるようになったよ。(スタッフ)
- ・近くに子どもがないので、ここに来れば一緒に好きなスポーツができるのは楽しいね。(スタッフ)

ソフトバレー&インディアカ



お母さんやおばさんたちがやさしく教えてくれるよ。一緒に試合をやると楽しい。インディアカは少し難しい。

スポーツ交流会

健康体操で、気持ちよい汗が流せたわ。初めてだったけれどこれならやれるかも。子どもや孫と一緒にいろんな運動が楽しくできたらいいね。



小学生に教えることもあるので、自分たちも上達したい。他の種目もおもしろそうなので挑戦してみたい。

大人と子どものすがた

子どもたちは…？

- ・初めは恥ずかしがっていたあいさつも自然とできるようになった。スポーツを通して礼儀や基本的な生活習慣を教えられ、素直に受け入れるようになった。
- ・他の学校の友達と仲良くなって、学校や自分のことなどおしゃべりするようになった。
- ・スポーツに興味をもち、習慣化するようになってきた。

大人たちは…？

- ・子どもたちの送迎をきっかけに自分たちも参加するようになった。
- ・子どもと一緒にいい汗をかいている。そのうちに、スタッフ側にまわる人も出てきた。
- ・新しい仲間が増え、交流が広がっている。

スタッフは…？

- ・子どもたちとスポーツすることでこれまでと違ったスポーツの楽しさを味わい、積極的にかかわるようになった。
- ・地域のために始めたことが、今は自分自身でも楽しんでいる。

地域でさまざまな団体がネットワークをくみ、子どもとかがわる

矢場川地区地域子ども教室（足利市：矢場川地区）

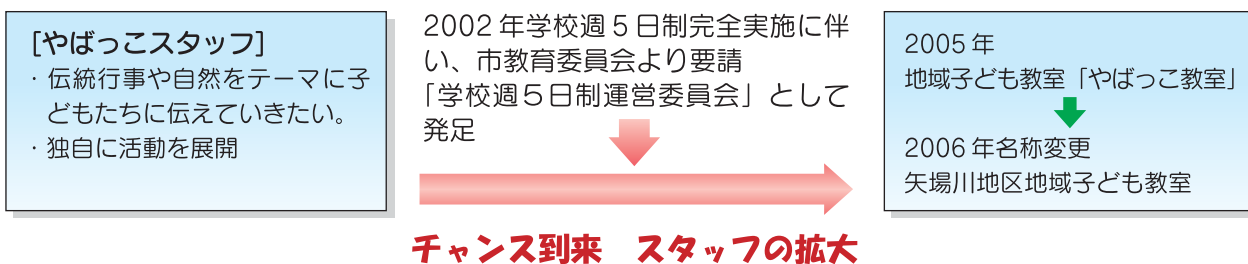
スタッフ構成

子どもたちにかかわる各種団体の代表者・担当者と組織。10のそれぞれの団体からスタッフとして何人かがかかわる。平成17年度活動にかかわったスタッフ数のべ250人を超える。

主な活動

- (1) 実施日：毎週土曜日
- (2) 内容：ニュースポーツ、ミニバスケット、おもしろ理科実験、パソコン教室、農作業、朗読劇、かるた、料理教室、大凧作り等多数。

立ち上げの経緯



継続・充実のためのポイント

① ネットワークの確立

【運営委員会】

子どもたちにかかわる地域のあらゆる団体の代表者・担当者と組織する。

年3～4回の会議をもちアイデアを出し合い、スタッフの持ち味を生かした学期ごとの活動計画を立てる。

- ・ 矢場川小学校
- ・ 矢場川小学校PTA
- ・ 矢場川公民館
- ・ 地区社会教育振興委員会
- ・ 町内自治会
- ・ 育成会
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 体育協会
- ・ ひまわり学童クラブ
- ・ やばっこスタッフ



各種団体の代表者たちがリーダーシップを発揮

【事務局】

教頭先生、PTA副会長、公民館館長、やばっこスタッフ、**学校をはじめ地域がガッチリと連携**

② 継続のコツ

スタッフはいつでも、だれでも、どこからでも参加OK!

無理のない体制

活動を応援したいスタッフは、いつでも入ってこられます。

③ スタッフの思い

矢場川地区の子どもたちのために何かできることはないだろうか。

こんなこと、あんなことを子どもたちと楽しんでやりたいな。

子どもと一緒に楽しむ!

活動例

月日	時間	開放場所	主な活動内容	担当者名または担当団体名
5/ 3	10:00~12:00	図書室	リング飛行機	PTA6学年部
5/20	9:00~12:30	やばっこ広場	竹で箸と皿作り 荀ごはん作り	やばっこスタッフ
5/27	10:00~12:00	体育館	キンボール他 軽スポーツ	体育協会
6/ 3	9:00~12:00	体育館	親子わくわく運動会	PTA保体郊外部
6/10	10:00~11:30	理科室	顕微鏡を使って	運営委員
6/17	10:00~12:00	図書室	リサイクル工作	PTA文化社会部
6/24	10:00~12:00	体育館	ソフトバレーボール	体育協会
7/ 1	9:00~12:00	やばっこ広場	カレー作り	やばっこスタッフ
7/ 8	10:00~12:00	食堂	葉脈のしおり作り	学校職員
7/15	10:00~12:00	食堂	牛乳パックでストライク ゾーンを作ろう	PTA5学年部
9/ 9	10:00~12:00	音楽室	マジックショーと 手品教室	運営委員
9/16	10:00~12:00	図書室	軍手で小物作り	PTA4学年部



風の強い日だったけれど、室内でやったら友達が入るシャボン玉ができたよ。やったあー！



農園では季節に合わせていろいろな作物を作っています。これは大豆！



手作り餃子はおいしそうだ。家でも作ろうかな。



顕微鏡をのぞくと、そこはもうミクロの世界だ。



農園でとれた大豆で豆腐を作るよ。豆のにおいがするよ。

大人と子どものすがた

スタッフは…？

- ・子どもたちが学校の先生、親以外の大人とかかわりをもつことで、褒められたりしかられたりしながら、のびのびと育てている。
- ・地域に安心感をもつようになった。
「土曜日、広場に行くとだれかがいて、何かがあるから楽しいよ。」
「遊びに出かけたとき、このあいだのおじさんがいたよ。」

地域の大人たち（スタッフや保護者）は…？

- ・子どもたちの笑顔を見るのが楽しい。
- ・子どもや地域の大人たちと自然に交流し、活動を一緒になって楽しんでいる。
- ・この活動をきっかけとして、さらに地域で子どもを育てようとする意識が高まっている。

団体としては…？

- ・熱い思いをもった各種団体のスタッフがいるが、その人々から刺激を受けたり、その人のよさを認め合ったりしながら手を取り合って活動している。